

地域イノベーションに貢献するURAの役割

8月30日（水） 13:50-15:20 会場H（3階）

近年、URAシステムは地域の中規模大学にも浸透しており、産学イノベーションの担い手としてURAへの期待はますます高まっている。ところが、知の好循環を形成するためにはまだまだ多くの課題があること、その課題も各大学において様々であることが指摘されている。特に地域の中規模大学ではURAの担い手の不足がひとつの課題となっている。そのため、産学連携支援を行うプレアワードURAには、広い分野の研究に精通し、そのサポートを行うための能力の獲得などが求められる。

一方で地域システムの面から見ると、近年自治体や金融機関等いくつかのレイヤーがコーディネーターを配置し、研究成果・開発技術を産業に結びつけるポストアワード支援を行っている例も見られ、大学の研究を活用した社会貢献については、様々なステークホルダーとの連携が今後ますます重要なファクターになると考えられる。

これらの背景を受けて、本セッションでは「地域イノベーションに貢献するURAの役割」について議論を行う。URAに期待される業務は広範囲となっているが、産学官学金連携や大学間連携など、地域イノベーションを考える際には、「プレアワードとポストアワードギャップ」がひとつのカギになると考えられ、そこに焦点をあてる。特にコーディネーター型URAとして、産学官連携活動に積極的に従事されている地域中規模大学の若手URAが現在どのような取り組みを行い、どのようなネットワークを形成しながら業務を行っているかを話し合うことによって、今後のURAの役割について発展的議論をしたい。

オーガナイザー／パネラー



徳田 加奈：福井大学 産学官連携本部 URA

人文社会系の研究者を経て、平成26年福井大学URAに着任にしました。プレアワードURAとして、主に競争的資金獲得支援、研究IR活動、研究プロジェクト立案支援、産学連携コーディネート活動支援などの業務を担当しています。大学における研究活動支援、産学官連携支援を通して、地域に貢献したいと考えています。

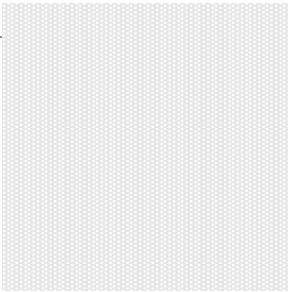
モデレーター



伊藤 慎一：秋田大学 産学連携推進機構 准教授／統括URA

2000年山形大学理工学研究科卒、その後、製薬会社での企画開発業務、(公財)あきた企業活性化センター職員、(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)フェローを経て、2011年秋田大産学連携推進機構のコーディネーターとして着任、同年秋田大学工学資源学研究科博士課程修了。現在は秋田大学のURAとしてプレアワードとポストアワードの両面から研究支援を行う。博士(工学)。専門は知財経営、マーケティング。

パネラー



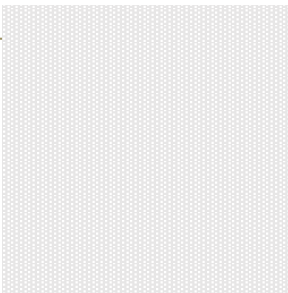
間宮 るい：茨城大学 学術企画部企画課 URAオフィス URA

ライフサイエンス分野で博士号を取得後、医学部で特任研究員となる。その後、出産を機に研究現場を離れ子育てに専念。そんな中、研究者ではない“研究者”であるURAの存在を知り、今の職場にめぐり合いました。現在は“食”に関わる農学部のカンパスに駐在し、日々多くの業務に勤しんでおります。URAとしての活動を通じて、子供たちが健康的でおいしい食事を将来にわたって食べ続けられる社会に貢献したいと思っています。



倉山 文男：宇都宮大学 地域共生研究開発センター URA

創価大学大学院工学研究科博士課程を修了し、博士(工学)を取得。専門は生物化学工学、粉体工学。創価大学にて助手、宇都宮大学にて研究員等を経て、2013年5月よりコーディネーター、2015年3月より現職。群馬大学・宇都宮大学・茨城大学による『『多能工型』研究支援人材育成拠点』コンソーシアムでの研修を受けながら、工学部担当として教員情報の収集整理や競争的研究資金申請支援、産学連携支援などを行なっている。



設楽 愛子：東京海洋大学 産学・地域連携推進機構 URA

2015年2月より東京海洋大学URAとして活動している。博士(海洋科学)。東京海洋大学では、水産・海事・流通等、産業に直結した研究・開発が行われており、これらの産業は地域とも密接に関わっている。URAとしてこれらの研究・開発を支援するためプレアワードからポストアワード、知財管理、地域との合意形成、技術移転等、幅広く活動している。